

自社開発の特化型 AI「KIBIT」コア技術について 欧州における特許査定を取得

テキストの概念を捉え、既知から未知を発見する自然言語処理アルゴリズム

株式会社FRONTEO（本社：東京都港区、代表取締役社長：守本 正宏、以下 FRONTEO）は、欧州特許庁より、FRONTEO自社開発の特化型AI「KIBIT（キビット）」のコア技術について特許査定通知を受領したことをお知らせします。

【特許概要】

特許名称：類似性指標値算出装置、類似検索装置および類似性指標値算出プログラム

欧州出願番号：18876872.5

登録査定日：2024/12/3

FRONTEOは、本技術について、2018年6月に日本、2022年10月に米国で特許権を登録しています。このたび欧州でも特許査定を取得できたことは、本技術が世界水準において高度な新規性・進歩性を有することの証左であり、FRONTEOの技術力の高さと革新性を示すとともに、海外市場へのビジネス展開を図る上でも重要な意味を持つと考えます。なお、本特許は、欧州単一特許批准国（18カ国）や英国、スペインでの登録を予定しています。

技術の進歩が極めて早い自然言語処理AI領域においては、LLMなどの関連技術が公開されていますが、特にFRONTEOがターゲットとするライフサイエンスなどの専門性の高い情報を取り扱う分野においては、それらの関連技術と比較した際の本技術の自然言語解析技術の優位性が確認されています¹⁾。

FRONTEOは、革新的なAI技術の研究開発や社会実装を通じ、社会課題の解決やライフサイエンス、企業のビジネス、学術研究の発展の一助となるべく努めてまいります。

1) J Med Internet Res. 2020 Dec 30;22(12):e22422. doi: 10.2196/22422.

■ **FRONTEO** について URL : <https://www.fronteo.com/>

FRONTEOは、自社開発の特化型AI「KIBIT（キビット）」の提供を通じて、日夜、社会課題と向き合う各分野の専門家の判断を支援し、イノベーションの起点を創造しています。当社独自の自然言語処理技術（日米特許取得）は、汎用型AIとは異なり、教師データの量およびコンピューティングパワーに依存することなく、高速かつ高精度での解析を可能にします。加えて、解析した情報をマップ化（構造を可視化）する特許技術を活用することで、「KIBIT」が専門家のインサイトにダイレクトに働きかけることができ、近年、KIBITの技術が創薬の仮説生成や標的探索にも生かされています。



KIBITの独自技術およびアプローチを通じて、「記録に埋もれたリスクとチャンスを見逃さないソリューションを提供し、情報社会のフェアネスを実現する」理念の実現に向けて、[ライフサイエンスAI](#)、[ビジネスインテリジェンス](#)、[経済安全保障](#)、[リーガルテックAI](#)の各分野で社会実装を推進しています。

2003年8月創業、2007年6月26日東証マザーズ（現：東証グロース）上場。

日本、米国、韓国、台湾で事業を展開。

第一種医療機器製造販売業許可取得、管理医療機器販売業届出。

資本金898,618千円（2024年8月31日時点）。

※FRONTEO、KIBITはFRONTEOの日本および米国における商標または登録商標です。

<報道関係者のお問い合わせ先>

株式会社 FRONTEO 広報担当

E:mail: pr_contact@fronteo.com 電話番号 080-4321-6692